

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和02年04月21日

計画の名称	釧路港における安全で利便性の高い港湾環境の形成（防災・安全）													
計画の期間	平成27年度～平成31年度（5年間）										重点配分対象の該当			
交付対象	釧路市													
計画の目標	老朽化の進む施設の計画的な改良により、安全で利便性の高い港湾環境を形成する。													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		419	A	419	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H27当初	H29末	H31末
1	老朽化した港湾施設を整備し、健全な港湾環境を形成する。 臨港道路の改修による危険区間の計画期間における解消率を算出する。 西港道路の危険区間の解消率=西港道路の改修実施延長÷西港道路の計画期間の改修計画延長（180m）	0%	100%	100%
2	老朽化した港湾施設を整備し、健全な港湾環境を形成する。 係留施設の改良が必要な危険個所の計画期間における解消率を算出する。 第2埠頭西側-7.5m岸壁の危険個所の解消率=第2埠頭西側-7.5m岸壁の改修実施延長÷第2埠頭西側-7.5m岸壁の計画期間の改修計画延長（95m）	0%	100%	100%
3	老朽化した港湾施設を整備し、健全な港湾環境を形成する。 橋梁の改良が必要な危険区間の計画期間における解消率を算出する。 東跨線橋の危険区間の解消率=東跨線橋の改修実施延長÷東跨線橋の計画期間の改修計画延長（197m）	0%	69%	100%
4	老朽化した港湾施設を整備し、健全な港湾環境を形成する。 係留施設の改良が必要な危険個所の計画期間における解消率を算出する。 新南埠頭南側ドルフィンの危険個所の解消率=新南埠頭南側ドルフィンの改修実施延長÷新南埠頭南側ドルフィンの計画期間の改修計画延長（36m）	0%	0%	100%

備考等	個別施設計画を含む	<input type="radio"/>	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	-----------------------	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H27	H28	H29	H30	H31			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
港湾事業	A02-001	港湾	北海道	釧路市	直接	釧路市	重要	改良	西港道路改良	オーバーレイ L = 180m	釧路港・西港区						19		策定済
	A02-002	港湾	北海道	釧路市	直接	釧路市	重要	改良	第2埠頭西側-7.5m岸壁改良	車止め更新 L = 95m	釧路港・西港区						10		策定済
	A02-003	港湾	北海道	釧路市	直接	釧路市	重要	改良	東跨線橋改良	橋梁改修 L = 237m	釧路港・西港区						336		策定済
	A02-004	港湾	北海道	釧路市	直接	釧路市	重要	改良	南新埠頭南側ドルフィン改良	上部工・下部工 L = 113m	釧路港・東港区						54		策定済
											小計						419		
											合計						419		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 所管部署により評価を実施。	事後評価の実施時期 事業完了後
	公表の方法 評価完了後、釧路市ホームページに掲載。
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	事業実施により危険箇所・区間が解消され、健全かつ安全な港湾環境が形成された。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	施設の機能回復により利用者の利便性が向上した。
特記事項（今後の方針等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨港道路 東跨線橋通を整備することにより、東跨線橋を含む路線として機能回復を図り、健全かつ安全で利便性の高い物流ネットワークを形成する。 ・南新埠頭南側ドルフィンが事業を継続し、機能回復を図ることで健全な港湾環境を形成する。 	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	100%
	最終実績値	100%
2	最終目標値	100%
	最終実績値	100%
3	最終目標値	100%
	最終実績値	120%
PCB含有産業廃棄物処理費の市場価格が大幅に下がったことにより、事業進捗を図ることができたため。		
4	最終目標値	100%
	最終実績値	161%
補修工法の検討による工事費節減により事業進捗を図ることができたため。		